

## 2022年(令和4年)7月オホーツク管内倒産集計

2022年8月3日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

### 今年6回目の発生ゼロ 累計件数・負債額ともに過去最低

#### 2か月ぶりに発生ゼロ

■前月比	件数	1件減少(2022年6月	1件)
	負債総額	2,356万円減少( "	2,356万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(2021年7月	0件)
	負債総額	同数( "	0円)

#### 2022年7月の発生状況

2022年7月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生がゼロだった。これは前月と比較すると皆減となり、発生がなかった前年同月との比較では件数、負債総額ともに同数となった。

過去5年間の7月の発生状況を見てみると2020年に1件発生した以外に発生しておらず、平均発生件数は0.2件、同負債総額が240万円。7月は発生の少ない月といえるが、今年も発生ゼロに止まっている。発生ゼロは2か月ぶりで今年6回目となり、極めて低水準で推移している。

## 2022年1～7月の発生累計

今年1～7月の累計発生件数は1件、負債総額で2,356万円に止まっており、前年同期間と比較すると件数で7件、負債総額では7億9,744万円の大幅な減少となった。

過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均発生件数は10.0件、同負債総額は8億9,518万円。今年はすでに7か月が経過しているが、発生は1件に止まっており、過去5年は言うまでもなく、当社が集計を取り始めた1966年以来、最少の件数、負債総額で推移している。

過去5年間と今年1～7月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2017年	15件	6億6,700万円
2018年	10件	11億4,400万円
2019年	9件	6億4,590万円
2020年	8件	11億9,800万円
2021年	8件	8億2,100万円
2022年	1件	2,356万円

## 今後の見通しと問題点

新型コロナ対策に伴う行動制限で影響を受けてきた外食、宿泊、サービスなどの業界が回復基調となった矢先にコロナ感染が急速に再拡大しており、外出の自粛が広がり始めれば再び業績が悪化する懸念がある。前払金保証から見た4～6月の公共工事の累計は前年同期間比で2.2%の減少。上半期(1～6月)の管内建築確認申請数は前年同期間比10.5%減となっているなど活況を呈していた建設業界にも陰りが見えきた。原材料価格の高騰や円安によって仕入商品や原材料は値上がりしているが、販売価格に転嫁できない企業も多く、幅広い業界で収益悪化が懸念される。

コロナ感染の再拡大に加え、原油や原材料価格の高騰は長期化する可能性もあり、経営体力の脆弱な小規模企業への影響が大きいなか、借り入れしていたコロナ対策資金は底をつく一方、返済が始まる企業も多いため、今後資金に詰まる企業が出てくることが予想され、過去に例を見ない低水準で推移している管内企業倒産であるが、楽観視はできず、緩やかに増加を辿る可能性がある。

